

## 31日 木曜

### ガラテア

6:11 ご覧なさい。こんなに大きな字で、私はあなたがたに自分の手で書いています。

6:12 肉において外見を良くしたい者たちが、ただ、キリストの十字架のゆえに自分たちが迫害されないようにと、あなたがたに割礼を強いています。

6:13 割礼を受けている者たちは、自分自身では律法を守っていないのに、あなたがたの肉を誇るために、あなたがたに割礼を受けさせたいのです。

6:14 しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました。

6:15 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。

6:16 この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

6:17 これからは、だれも私を煩わせないようにしてください。私は、この身にイエスの焼き印を帯びているのですから。

6:18 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。アーメン。

パウロは目が悪かったので、自筆で書くときには大きな字でなければなりませんでした。そのことはむしろ彼の情熱を明かにしました。弱さが人の心を動かすことにもなると信じて、主のみこころを熱心に行いましょう。

割礼とは、古い約束による救いの条件です。しか



しそのような古い条件は、律法も含めて誰も守りきることができないので、実際には救いではなくさばきをもたらすものなのです。それなのに何故「割礼を強制する」のかというと、それは『外見を良くしたい』のであると、パウロは言います。すなわち外見上は「立派な人、立派な信仰」と見られたいのです。

目に見える基準を自分で決めて、”〇〇できるから、〇〇しているから、〇〇していないから”立派だとか、信仰が足りないなどと言う人は、そのような人であるということです。

私たちは自分の行いを誇らないで、「主イエス・キリストの十字架」だけを誇りにしたいものです。そうでなくてないけません。自分を誇らないこと。それはいつも誠実に意識していなければいけないものではありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

